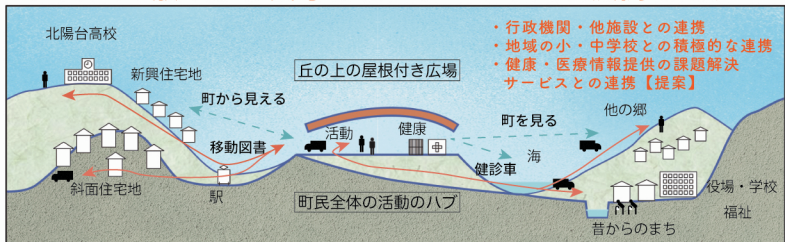


屋根付き広場で集いを包む丘の上の図書館

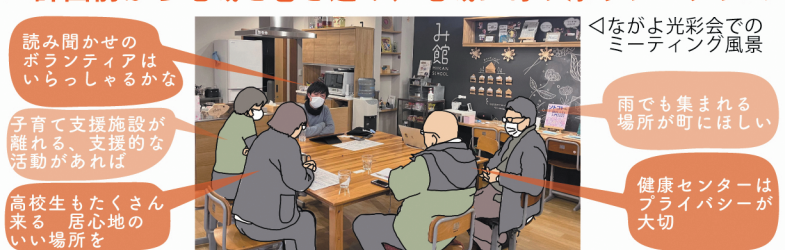
長与町の中央エリアに位置し、役場や学校等と近接した立地であるとともに、「図書館+健康センター」という用途的にも今後の長与町の未来を担う施設になることは間違いありません。ここに、従来のようなハードからソフトを作るプロセスではなく、既に長与町で行われている先進的な取組や長与町民の想いに寄り添ってハードを作る設計プロセスによる、新しい公共施設を提案します。

□丘の上の敷地から長与らしいプログラムを展開します



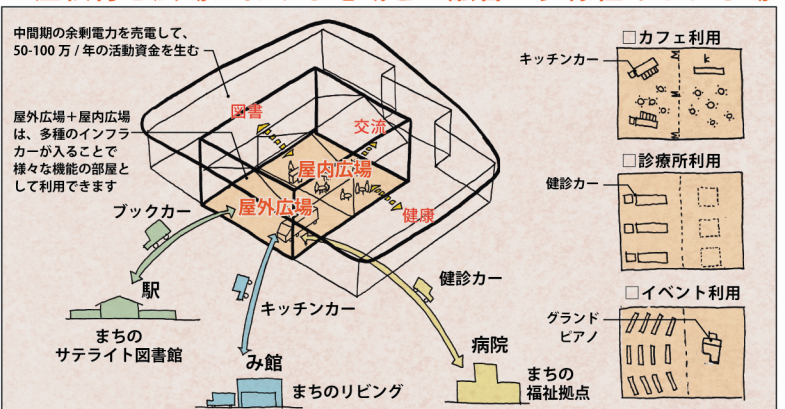
本建設地は高台になっていることから、町を照らす灯台のような図書館にもなります。坂の街長崎らしいこの立地に直接向かうのが難しい方でも、移動図書館『ほほえみ号』をはじめとして様々なモビリティを積極的に活用することで、長与町全体にプログラムが拡がり、図書館はその発信拠点として、様々なシーンを展開できる構成とします。

□計画前から地域を巻き込み、地域に寄り添うプログラム



本計画は現時点でも福祉や医療に詳しい長与の住民と対話しながらプランニングしています。今後もキーパーソンも含めた地元の人々と密にコミュニケーションを図りながらソフト・ハードの連携を進めていきます。

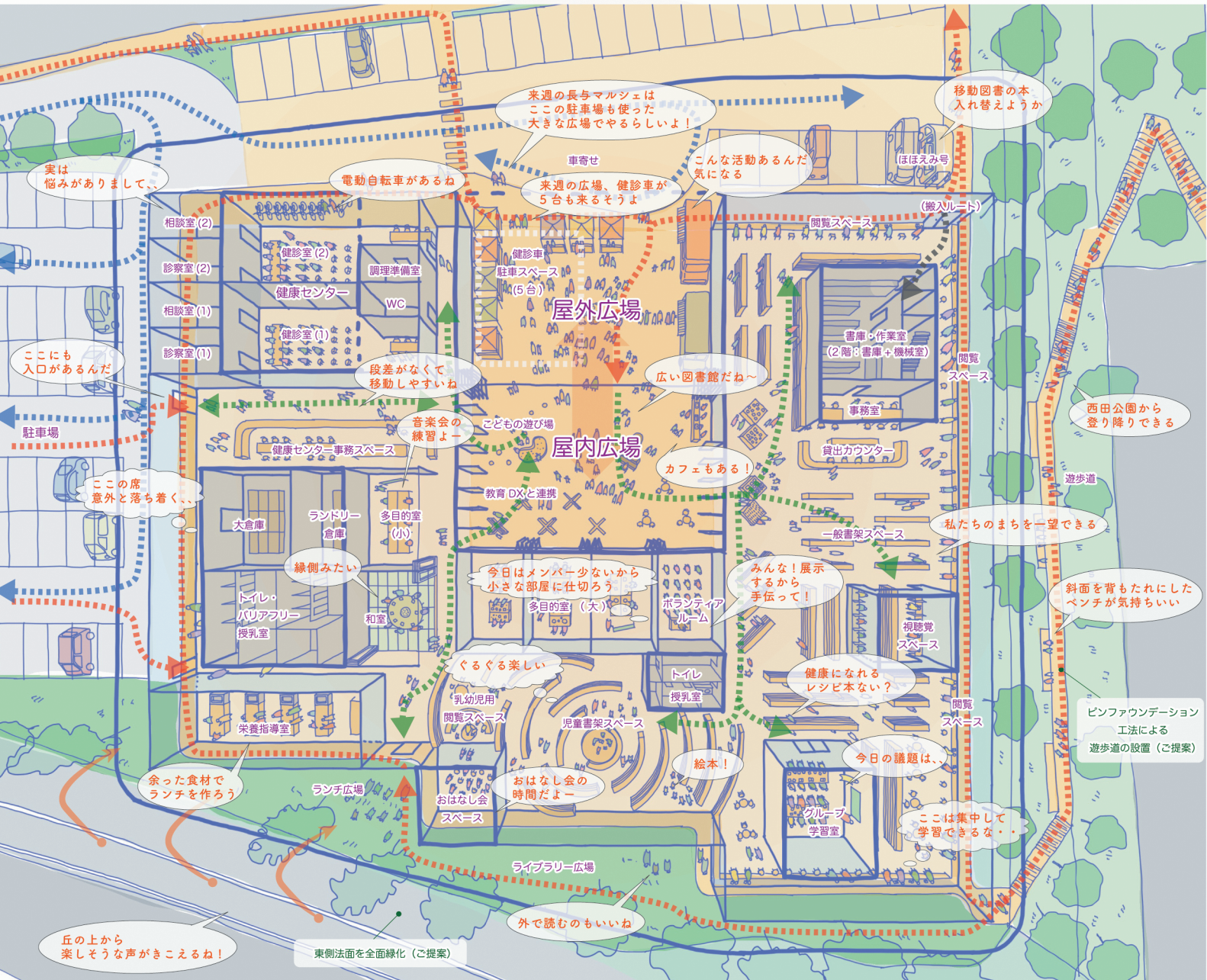
□屋根付き広場における地域との融合・多様性あふれる場



屋根付き広場は図書館主導のイベントだけでなく、多目的スペースとして町民の活動も行えます。町民がもつ知識や資源を生かし、町民主体のイベントを開くこともできます。読書や健康診断だけにとどまらない、あらゆる学びや体験を得る場所になります。

□時代変化に対応可能な内外一体の広場の柔軟性

中央には大きなパーテーション等で必要によって空間を区切ることが可能な体育館サイズの屋根付き広場を設けています。大屋根の下では様々なイベントや健診の待合が展開され、災害時にも避難所として運用することが可能です。自由な空間を中心とすることで、図書館と健康センターとの連続的な運用も可能な、お祭り広場のような建築にもなります。



□環境性能を高める(nearlyZEB)ことで、地域の持続的な活動を創出する

- ・徹底的に外皮性能(断熱性能及び開口部性能)を強化し、さらに年間を通しての効率的な日射制御をシミュレーションにより検証します。
- ・建築側での負荷抑制を十分行った上で、効率的な設備計画を行い一次エネルギー消費量を基準値より55%まで削減します。
- ・南面する屋根に太陽光発電を設置し、220kwの創エネを行いnearlyZEBの達成を目指します。
- ・発電の中間期余剰分約400-500kwhを売電し、継続的に得られる年間50-100万の資金を様々な町に広がる持続的なアクティビティや拠点づくりの運転資金として活用します。

